
逃げる。

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
逃げる。

【Nコード】
N4505M

【作者名】
ロースト

【あらすじ】
一人語りから始まり、オチ。

僕は静かな空間にいた。学校の休み時間で教室内。当然のごとく周りはうるさい。だが、所詮は周りのことで、僕には一切関係がなく、雑音だと思えばなんとも感じない。だが、羨ましかった。空間は静か過ぎて自分にはとても怖く感じられていたのだ。こんな場所から出て、みんなの中にいたかった。くだらなくても、変なことでもいいじゃないか。ただ、何かが怖くて、恐れていた。だが、殻を破って他人と談笑するよりこの殻を壊すことで失う何かのほうが一番にはよっぽど怖かった。だから、自分では決して殻を壊そうとはせず、ただ誰かが気づいてくれるのを待っていた。

そんな時、君に出会った。衝撃的なわけじゃなかった。それでも、君との会話は僕の心にしみこんできて、嬉しかった。君が僕の殻の中に侵食してきて、連れ出してくれた。怖くない、恐れることはないと言うように僕を先導してくれた。

「そんな君に惹かれたんだ。」

言い終わった後、目を少し伏せた。突然こんなことを言い出した僕に彼女は困惑の表情を表していた。それでも、僕は彼女からの拒絶が怖くて真っ直ぐに見れない。そして続ける。

「僕はどうなつてもいいんだ。だから！」

そこで視線を合わせる。視線を向けた先にいる彼女は少し透けているように見える。そして彼女は言った。

「……ごめんなさい。私、幽霊なの。それでもいいというのなら、一緒に逝きましょう」

言葉の最後のほうで顔を上げた彼女はこちらに向けて笑んだ。だが、その表情はもはや僕の知る彼女ではなく、正真正銘の化け物だった。

「
うゝうわああああああああああああああああ
あああ………」

僕は逃げ出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4505m/>

逃げる。

2010年10月11日03時56分発行